

箕面船場における文化芸能国際交流 を推進するまちづくりについて

－箕面船場文化芸能国際交流推進コンソーシアム（MICA）の発足に向けて－

中間報告

令和4年(2022年)6月10日

箕面船場における文化芸能国際交流のまちづくりワークショップ

目 次

1. はじめに	P3
2. 参加メンバーによるプレゼンテーション	P4
※プレゼンテーションにおいて示されたメンバーのみなさまの経験・お考え・主張等（事務局まとめ）	
① 『（公財）箕面市国際交流協会の可能性 ー当事者主体のコミュニティと多様性を活かした地域づくりー』【岩城委員】	P4
② 『大阪大学外国語学部がめざすもの』【米田委員】	P5
③ 『語劇祭で知る世界』【安田委員】	P6
④ 『創造都市・MINOHを目指して』【阿部委員】	P7
⑤ 『まちづくりは人づくり～自分のまちを「住みつづけたいまち」へ～』【須貝委員】	P8
⑥ 『箕面船場はきっとおもしろいまちになる』【小林委員】	P9
⑦ 『船場西地区連合自治会のご紹介』【村井委員】	P10
⑧ 『大阪船場繊維卸商団地協同組合について』【山口委員】	P11
⑨ 『インクルーシブな社会を目指す』【プリティ委員】	P12
⑩ 『音楽の力と箕面船場における活性化の可能性』【吉岡委員】	P13
⑪ 『公益財団法人箕面市メイプル文化財団について ー地域に密着した事業展開と地域に親しまれる施設づくりー』【森委員】	P14
◆参加メンバーの関与した分野	P15
3. 中間提言	
箕面船場文化芸能国際交流推進コンソーシアムの（MICA）発足	P16
◆本市・参加メンバーの所属団体等に係る文化芸能国際交流に関連する行事	P22
◆これまでの検討経過	P23
◆箕面船場における文化芸能国際交流のまちづくりワークショップ参加メンバー名簿	P25

1. はじめに

本市は、令和6年（2024年）春の北大阪急行線の延伸に合わせた船場地区のまちづくりを進めており、昨年（2021年）5月、船場地区に新たな複合公共施設（文化芸能劇場、船場生涯学習センター、船場図書館等）が完成しました。

また、本市の活気あるまちづくりと大阪大学の教育研究の発展・学習環境の向上の観点から、大阪大学箕面キャンパスの船場地区への移転が実現し、昨年4月に開校しています。

さらに、令和7年（2025年）には、大阪・関西万博が開催されます。本市は昨年5月、大阪・関西万博の「共創パートナー」に登録され、文化芸能国際交流などに関する各種取組の実施・支援により、船場地区を実証フィールドとして提供していきたいと考えています。

以上のような状況を踏まえて、まずは、船場地区が文化芸能・国際交流の拠点となるためにどのような取組が必要なのか、そのヒントを得るためのシンポジウムとして、昨年7月11日（日）に「箕面船場における文化芸術国際交流のまちづくりシンポジウム」を開催しました。

また、このシンポジウムでの議論を踏まえつつ、本市、大阪大学外国語学部、箕面市メイプル文化財団、箕面市国際交流協会をはじめとした関係者で構成される、「箕面船場における文化芸術国際交流のまちづくりワークショップ」（以下「ワークショップ」といいます。）を設置し、これまで7回にわたり具体的方策の検討を進め、このたび中間報告を作成しました。

この中間報告に基づき、今後さらに関係者による具体的な方策の実現に向けた取り組みを期待します。

2. 参加メンバーによるプレゼンテーション【岩城委員】

参加メンバーの紹介はP25参照

① 『(公財)箕面市国際交流協会の可能性』 ～当事者主体のコミュニティと多様性を活かした地域づくり～ 別添プレゼンテーション集P12

プレゼンの主な内容

【MAFGAミッション】

- ①外国人市民の人権保障…言葉や制度、心の壁により必要な支援が受けられない外国人市民に対し、市民ボランティアや行政、地域団体と連携して支援する。
- ②多文化共生社会の実現…外国人市民の社会参加と地域での活躍を促進するなど、同じ地域社会の構成員として暮らすことのできるコミュニティづくりを進める。
- ③市民参加による地域づくりの推進…市民が主体となって取り組みを展開するようコーディネートを行う。

【取り組みと事業】

日本語教室の開催、多言語相談窓口の設置、外国人の防災力向上、多民族フェスティバルの開催、comm cafeで外国人市民の活躍の場を提供、大阪大学箕面キャンパスでの学生・若者と地域がつながる居場所「ひとこま」など

【課題】

- ・3F (Food(食糧) Fashion (民族衣装) Festival (祭り)) などのコンテンツを活用し、最終的な目標として多文化共生社会を実現したい。
- ・地域や学生、若者のつながりを深め、地域リソースの活用を促したい。
- ・双方向の交流により、お互いに学びあう姿勢が生まれ、多様な価値観をもつ人材を地域で育てたい。
- ・共生社会の実現には、受入側の社会に学び、議論、変化が必要。

プレゼンに対する主なコメント

- ・「comm cafe」の事業は全国にも類を見ない。船場のまちづくりにどう活かしていくかが重要。
- ・企業における外国人の就労支援と雇用について、連携の可能性を感じた。

2. 参加メンバーによるプレゼンテーション【米田委員】

②『大阪大学外国語学部が目指すもの』別添プレゼンテーション集P57

プレゼンの主要内容

【大阪大学外国語学部のモットー】

(教育理念)「言葉を究めて世界へはばたく」

(教育目標)「言語を通して文化を学び、文化を通して言語を学ぶ」

【取り組みと事業】

(外国語学部)

- ・マンスリー多文化サロン 専攻語の教員と参加者(市民)と飲食をしながら外国のことを学ぶ
- ・学生と遊ぶ 留学生が地域の子どもたちに自分たちの国のことを話し伝える
- ・夏まつり 学生主体のイベント 箕面キャンパスの学祭
- ・語劇祭 学生主体のイベント 専攻語で色々な劇を発表(学習的な要素も)
- ・箕面市民連携講座 卒業前の学生が学んだことを市民に伝える講座

(専攻語)

- ・専攻語地域出身の留学生が府内の方々と食事・趣味で交流する事業

(社会学連携)

- ・外国にルーツをもつ小・中・高の子どもたちをサポート
- ・小・中学生には学習支援、高校生(府立)には思春期の悩みや相談事を若者同士でサポート
- ・異文化理解として、低学年にはいろんな国のことを知って学んでもらう

【課題】

- ・いろいろな人がいることがあたりまえを波及させること。
- ・よく似た取り組みをしているので、今後MAFGAと連携事業などができないか。
- ・新しい場所からのスタート「地域に生き世界に伸びる大学」として進んでいくこと。

プレゼンに対する主なコメント

- ・「いろいろな人がいるのはあたりまえ」という人権意識や専門性を背景とした「国際交流事業」など地域・社会と連携した事業に取り組んでいると感じた。
- ・大阪大学と箕面市国際交流協会が中心となり、周辺の市民や関係組織との連携を深めて行くことは、船場のまちづくりには欠かせないと思う。

2. 参加メンバーによるプレゼンテーション【安田委員】

③ 『語劇祭で知る世界』 別添プレゼンテーション集P59

プレゼンの主な内容

【語劇祭とは】

語劇祭は、実行委員会形式で全て学生に運営が任されている。代々引き継がれていく伝統のイベントの語劇祭

- ・学生は自分の専攻語で劇をすることで、その国の歴史・文化を得ることができ、授業外でも専攻語を学ぶことができる。
- ・異文化体験と学びを取り入れた事業。
- ・語劇祭(箕面キャンパス)2日間で19言語の専攻語劇を開催

【課題】

- ・学内外で宣伝・PRできる場所、機会の創出
- ・イベント等を開催するノウハウ習得

プレゼンに対する主なコメント

- ・語劇祭の開催をより多くの市民の方に宣伝してもらい外国語学部だけではなく、市民の語劇祭にしていくことが当面の目標になると思います。
- ・すぐにできることは、広報に力を入れ、地域住民に更なる関心を持ってもらえる方法を探るべきかなと思いました。

2. 参加メンバーによるプレゼンテーション【阿部委員】

④ 『創造都市・MINOHを目指して』 別添プレゼンテーション集P74

プレゼンの主な内容

*自治体国際化協会地域国際化推進アドバイザー、また、金沢大学の講義で異文化理解・多文化共生・創造都市の3つを絡めながら、経済・文化・人権の話をしている。

【創造都市とは】

市民の創造活動の自由な発揮に基づいて、文化と産業における創造性に富み、同時に脱大量生産の革新的で柔軟な都市経済システムを備え、グローバルな環境問題や、あるいはローカルな地域社会の課題に対して、創造的問題解決を行えるような「創造の場」に富んだ都市のこと。

【創造都市MINOHの実現のために】

- ①創造性あふれる都市づくり・・・個人、組織、都市、それぞれの創造性を重視する。
- ②企業や市民を結びつける・・・クリエイターとネットワークの存在が必要。
- ③創造支援・・・インフラを多様に整備し、多彩な産業と文化の「創造の場」をつくる。
- ④固有の生活文化と技能の再創造・・・新しい産業の創造

【課題】

・創造都市を代表する上記のような金沢のアプローチが、船場のまちづくりにおいてどこまで達成できるか。

プレゼンに対する主なコメント

- ・金沢市の例についてもう少し詳しく調べて、これから考える土台にしていきたい。
- ・創造都市のプロセスを実現するための仕掛けあればと思いました。

2. 参加メンバーによるプレゼンテーション【須貝委員】

⑤『まちづくりは人づくり』～自分のまちを「住みつづけたいまち」へ～ 別添プレゼンテーション集P86

プレゼンの主な内容

【(特活) 市民活動フォーラムみのおのミッション】

地域に根ざした市民活動・市民事業の自律的發展を促すために、市民・行政・企業との協働のもと、さまざまな支援を行い、市民社会の確立と魅力ある地域社会の創造に寄与していくこと。

・そんな豊かな地域社会を実現するための3つの柱

- ①自立＝社会課題の解決に取り組むNPOのチカラを強化すること。
- ②担い手＝市民活動の担い手を増やすこと。
- ③連携＝NPO・企業・行政をはじめ様々な組織間の連携を深めること。

【取り組みと事業】

・「行政との協働の推進」、「NPO活動支援」、「社会課題に取り組む持続可能な活動展開への団体支援」、加えて「ネットワークの構築」を行っている。

【新しいまちづくりの可能性】

・ハード面だけの新しさでは「まちの魅力」は続かない。学生も市民も「自分たちのまち」として誇りを持ち、愛着を持てるまちであることが重要であり、そのために主体的に関わることが大事で音楽、アート、市民活動、国際交流の発信地として体験共有できる場づくりが必要。

【課題】

・NPO市民活動と文化芸能国際交流の分野は、重なり合う部分が多い。市民を中心に、いろんな価値観や文化、生活があり、お互いが認め合えるインクルーシブな社会を実現することは目標でもあり、大きな課題でもある。

・船場のまちづくりに関しては、周辺の関係団体の協力が必要。

プレゼンに対する主なコメント

・船場のまちづくりに関しては、周辺の関係団体の協力なくては進まない。また、関係団体や組織が、お互いの有する情報を交換しながら、交流を深め、快適な地域社会づくりに貢献できればと考えている。

・既存団体が行っている活動をベースに「箕面船場」で新しい活動できればと思う。

2. 参加メンバーによるプレゼンテーション【小林委員】

⑥『箕面船場はきっとおもしろいまちになる』 別添プレゼンテーション集P113

プレゼンの主要内容

【箕面船場まちづくり協議会のコンセプト】

2018年にできた「箕面船場まちづくり協議会」は新しい組織で、集う場・つなぐ場・生みだす場、そして、「文化」、「共生」、「交通」、「子育て」の分科会を設け、安心・安全なまちづくり、創造性豊かなまちづくり、誰もが楽しく個性を発揮できるまちづくりを目指している。

【主な活動】

- ・箕面船場まちづくりフォーラムの開催は、箕面船場まちづくり協議会が、発足する前の2017年3月から船場に関係するテーマで、大阪大学、船場団地組合他の参画を得て開催し、2019年までに5回開催している。
- ・子どもたちの自立性、社会性の育成に取り組む【Mini Mi~no】(子どもたちが運営するまち)の開催や地域活動としてラジオ体操を広場や公園で行っている。
- ・情報発信として「箕面船場まち知るべ」の発行、配布や、2021年4月ホームページを開設。
- ・4つの分科会から船場に関係する各団体等との意見交換や、情報共有などに取り組んでいる。

【船場での今後の取り組み提案】

- ・語学力と社会知識を兼ね備えたインバウンド対応ボランティアガイド実践プロジェクト。
- ・疑問等の課題解決のための「箕面船場サロン」の実施。

【課題】

- ・船場エリア内だけでなく、箕面市全域、周辺に至る人材の参画を広く求めて活動の礎とし、産・官・学・民協働の活動を目指していくためのつながりが必要。

プレゼンに対する主なコメント

- ・子どもが中心となる場づくりをするために、子ども、若者限定の「企画員」を募ってはどうか。彼らが自由に使える場所、予算を確保するのは大人&行政&地域団体、3セク、企業、企業組合で話し合う。当事者である「子ども&若者」の中に、地域を変えていく答えはあると思うので、安心して任せられる仕組みづくりに取り組んでいただきたい。
- ・船場のまちづくりの要素として大阪大学外国語学部、国際交流協会と並んで船場まちづくり協議会の存在は大きい。地域住民、特にまちづくりに関心の高い市民の存在なくして船場のまちづくりは成り立たない。

2. 参加メンバーによるプレゼンテーション【村井委員】

⑦ 『船場西地区連合自治会のご紹介』 別添プレゼンテーション集P147

プレゼンの主な内容

【自治会活動と実態】

- ・高層マンション等の地域事情を把握し、イベントや、防災訓練など生活に密着した活動を展開している。
- ・公園清掃活動、天ぶら油の回収、共同募金など
- ・福利厚生の親睦バス旅行（このコロナで実施できていない）
- ・年末年始の催事（どんど焼き・歳末夜警巡回）
- ・実態としては
 - ①箕面市内で310の自治会が活動している。
 - ②船場西地区連合自治会においては860世帯ある。
 - ③新しい住民、昔からの住民は半々の状況
 - ④役員の持続が難しく、役員集めに苦勞している。

【課題】

- ・地域における自治会としての役割の明確化と周辺団体との情報共有や連携が必要。
- ・自治会員と他の関係団体との相互理解が必要。
- ・活動での問題点については活動拠点が無い。

プレゼンに対する主なコメント

・業務や人員が重複して負担がかかっている印象もありますので、うまく役割分担してそれぞれの業務が誰でもできるように箕面市のサポートがあれば良いと思います。

・船場にできた大阪大学、従来からある船場繊維卸商団地協同組合とともに連合自治会と一緒になって文化や芸術、国際交流の取り組みができればと思う。特に子ども達や若い世代の方々の参加は自治会と連携しないと実現しない。

2. 参加メンバーによるプレゼンテーション【山口委員】

⑧ 『大阪船場繊維卸商団地協同組合について』 別添プレゼンテーション集P177

プレゼンの主な内容

【協同組合とは】

- 人の組織（出資額の多少に関わらず一人一票）
- 相互扶助の組織（中小企業が集まり、協同して共同事業を利用することで利益を増進する）
- 組合員のための組織（組合自身の利益追求ではなく、組合員の事業を保管することが目的）
 - ・これら3つを一般的に「メンバーシップ制」の組織という。

【協同組合が行う事業】

- ①物流事業②施設運営事業（①物流施設②展示場③会議室④店舗・事務所駐車場の管理）
- ③まちづくりに関する事業（区画整理他）④金融事業⑤福利厚生事業⑥教育事業⑦広報事業
- ⑧その他
- *これらの事業については本組合員に限られている。

【これからの船場の課題】

- ・組合員企業が地域から撤退していくこと
- ・箕面船場団地の活性化

プレゼンに対する主なコメント

・組合の本来の目的も大学の本来の目的も、交流ではないはずだが、それでも、そのような団体・組織が共存していくにあたって、交流・協働していくことは、それぞれにとって（本来の目的を阻害することなく）「益」になる形があるはずだし、それを探っていくことが必要だと思う。

・「まちづくり」という共通のテーマに関して、協同組合とまちづくり協議会が考えていることや課題に関して共有する研究会的な場の創出。

2. 参加メンバーによるプレゼンテーション【プリティ委員】

⑨『インクルーシブな社会を目指す』 別添プレゼンテーション集P189

プレゼンの主要内容

*箕面生まれ、箕面で育ち、現在「異なる国や文化の架け橋としての役割を目指す」外国にもルーツをもつ弁護士。国際という観点でプレゼンテーション

【日本の状況】

- ・日本に住む“外国ルーツ”の人は約280万人 毎年10万人ずつ増加
- ・日本で難民申請をして認められるのは約9,000人に対し47人(約0.5%)
- ・このような状況の中、周囲が当たり前のように思い込んでいることが本人にとっては“生きづらさ”につながっている。具体的には「外国人だからきっと英語が話せる」など「無意識バイアス」がある。

【理解と啓発】

- ・ダイバーシティ 主にビジネスの現場において、女性、外国人、LGBT、障害のある人等多様な個性、背景を持つ人材を積極的に採用、組織に様々な人材が存在している状態。
- ・インクルージョン 多様な人々が互いに個性を認め合い(会社や社会において)一体となる状態。「多様な人材を受入(ダイバーシティ)の状態から、受け入れた後その個性を認め合い活かす状態に発展させる。
- ・様々な要素を持った人々が集まる社会であるからこそ、多様性を認め、一人ひとりが自分らしく生きられる社会「インクルーシブな社会」を目指すことが大事。

【課題と方向性】

- ・外国人を観光客として受け入れる「インバウンド」の発想から、外国人が社会の中で必要不可欠な役割を担う「インクルーシブ」な社会を目指す意識にシフトする。

プレゼンに対する主なコメント

- ・船場エリアの新しくできるまちが、子ども、高齢者、外国人など多様な人々にとって生活しやすく、訪れやすく、移動しやすいまちになるような活動を箕面市と連携して具体的に行いたい。インクルーシブな社会をつくるためには子どもがインクルーシブデザインを学ぶ機会が必要で、そのためのワークショップを「子どもデザインラボ」として船場まちづくり協議会で行っていききたい。
- ・ソフトの部分(精神面、意識)は中々難しいところがあるので、物理的なもの(表示、デザインなど)から取組はじめることで、広く周りに対して啓蒙活動をする事が出来るのではないかと感じた。

2. 参加メンバーによるプレゼンテーション【吉岡委員】

⑩『音楽の力と箕面船場における活性化の可能性』 別添プレゼンテーション集P203

プレゼンの主要内容

【活動】

・いろいろなことを経験をし、音楽家バイオリニストとして、ロビーコンサート、子ども文化体験フェア、箕面まつり等、箕面市の様々なイベント催事に参加、参画する。

【自身が感じた音楽の可能性】

- ・音楽は人が何か痛みを受けた時、医療のように直接的治療をしたり、空腹をたちまち埋めるものではないかもしれないが、その痛みを受けた人の心を癒やし元気に笑顔にすることができる。
- ・音楽は子どもたちの情緒や、想像力を育む。
- ・阪神淡路大震災や長く続くコロナ禍そんな中で演奏（コンサート）を聴きに来た観客の声は、「こんな時間がほしかった」、「久しぶりに笑顔になりました」、「明日から頑張れそうです。ありがとうございます。」など人々が幸せになれるひととき。
- ・今後音楽を支えていくのは、そして文化芸術国際交流を活性化していくのは市民一人ひとり

【課題】

- ・それぞれの個人・団体が音楽芸術のみならず、文化芸術国際交流のイベントにつながっていくことが必要。

プレゼンに対する主なコメント

- ・音楽等のソフトをどのように活用していけるのか。これまでもいろいろなイベントが行なわれているようなので、市民にはすでに「期待」があると思う。広く周りに対して音楽を通じて心のケア等の啓蒙活動を行うことが出来るのではないかと感じた。

2. 参加メンバーによるプレゼンテーション【森委員】

① 『公益財団法人箕面市メイプル文化財団について』

ー地域に密着した事業展開と地域に親しまれる施設づくりー

別添プレゼンテーション集P235

プレゼンの主な内容

【メイプル文化財団のミッション】

- ・魅力ある事業の提供……市民文化の向上、教養の増進を図る催しの企画及び実施を行う。
- ・文化情報の収集及び提供…箕面市が委託する市民文化の向上、教養の増進を図る催しの企画及び実施に係ること。(ホール情報誌「ニュースm」の発行)
- ・文化施設の管理運営……積極的な文化活動の誘致と良好な施設イメージの醸成を図ること。

【取り組みと事業】

- ・メイプル文化財団の組織には、企画総務セクションと芸術創造セクションがある。
- ・芸術創造セクションは、地域に密着した事業展開を行う部署
- ・市民参加型演劇は、「みのおキッズシアターwith末成映薫」や演技からまだ見ぬ自分と出会う「自分をつくる学校」など
- ・身近な「ホールクラシック」は、国際的アーティストを身近なホールで観覧する機会を提供
- ・受託事業「箕面シニア塾」指定管理者事業「生涯学習講座」→健康長寿と日常生活の彩りと社会活動のアプローチや子ども達へのアプローチ 箕面市青少年吹奏楽団、みのおこども文化体験フェア(青少年健全育成)(文化芸術の継承)など。
- ・大阪大学と連携した船場での新たな取り組みとして特色あふれる生涯学習講座を展開
- ・地域に親しまれる施設づくり 市内の文化施設・社会教育施設を管理運営している。
- ・箕面市立メイプルホール ・箕面市立市民会館 ・箕面市立中央、東、西南生涯学習センター

【課題】

- ・新たな特色ある事業展開を図っていくこと。

プレゼンに対する主なコメント

- ・船場地区での新たな取り組み期待しています。現在開催されている大阪大学の講座も、メイプル文化財団自らが企画したり、市民の皆さんの声を吸い上げて講座を作ったりと独自のカラーも出していけるとおもしろいです。
- ・財団として市民参加のプロセスをいかに創って行くのか、そのプロセスにどう巻き混んでいくのかが、今後の課題であると思います。

◆参加メンバーの関与した分野

委員名 (敬称略)	連携	国際交 流・多 文化共 生	文化 芸能	コミュニ ティ形成	子ども	人権	人材育成	相談機能	イベント 集客
大迫	○								
岩城	○	○		○	○	○	○	○	○
米田	○	○		○					
安田	○	○		○					○
阿部	○	○	○	○	○				○
須貝	○			○	○	○	○	○	○
小林	○	○		○	○		○		○
村井	○			○	○				
山口	○								
プリティ	○	○				○		○	
吉岡	○	○	○		○				○
森	○		○		○		○		○

○は、参加メンバーまたは当該メンバーが所属する団体がこれまでの議論において、関与が可能であったと申告したものであり、同時に、今後の議論において積極的に関与していきたいと意思表示があったものを表している。

3. 中間提言

箕面船場文化芸能国際交流推進コンソーシアムの（M I C A）発足

- ー 「箕面船場における文化芸能国際交流のまちづくりワークショップ」を通して見えてきたこと
 - 1. 各団体・組織・個人の様々な豊かな実績
→ これからも大切にされるべき
 - 2. 同時に共通の課題も発見された
 - 3. それぞれの活動が、ある意味「個別的」に行われており、もしそこに何らかの「連携」「連帯」「繋がり」が実現されたら、それぞれのこれまでの活動がさらに豊かなものになっていく可能性を感じた。
→ 各団体を繋ぐ「横串としてのコンソーシアムの設置検討

箕面船場文化芸能国際交流推進コンソーシアム（M I C A）へ

「箕面船場における文化芸能国際交流のまちづくりワークショップ」



「箕面船場文化芸能国際交流推進コンソーシアム」

(Minoh semba International Culture and Art consortium)

略称：M I C A

箕面船場文化芸能国際交流推進コンソーシアム（MICA）とは

1. 緩やかな組織による緩やかなつながり

2. 現在のワークショップの発展的形態

①自由で闊達な意見交換

②箕面市からの委員委嘱

（専従は置かない・ボランティアベース・事務局は箕面市）

3. 何をするか？

①既存の活動の更なる豊かさのためのアイデア・実行

②コンソーシアムとしての文化芸能国際交流の新たな取り組み

（取り組み毎の「やりたい人」募集）

4. 活用される施設

船場複合公共施設を中心に

（船場図書館・船場生涯学習センター・文化芸能劇場）

コンソーシアムとしての文化芸術国際交流の新たな取り組み（試案）

①ART CITYサミットの開催（大阪大学箕面キャンパスが会場）

- ・文化を中心としたまちづくりを進めている豊岡市、金沢市、山形（東北工科大学）大川町他によるサミットを開催
- ・各自治体間の取り組みの相互交流により、文化によるまちづくりの機運を高める。
- ・資金調達の方法：文化庁への補助金申請のほか、スポンサーの開拓、クラウドファンディングなど

②レジデンスアーティスト制度（住居・給料を与えての活動）

- ・アーティスト活動を行う人材を雇用する。
- ・活動に際しては、子どもたちや高齢者の方々の支援を行うことを義務づけ、「教育」と「福祉」に関わる活動をノルマとする。

（参考）

新潟市民芸術文化会館「りゅーとぴあ」には、公共劇場専属舞踊団【No i s m】（ノイズム）が置かれている。

③無料芸術鑑賞券

- ・経済的な困難を抱える一人親世帯、外国人市民等を対象とした鑑賞券提供事業

コンソーシアムとしての文化芸能国際交流の新たな取り組み（試案）

④コンソーシアムNAVIの開設

- ・イベント、行事等のインフォメーション窓口を開設

⑤金沢市民芸術村的な展開

- ・いつでも、誰でも、自由に、年中無休、24時間、自主管理
- ・年中無休・24時間・低料金で利用できる施設。利用者は、早朝から深夜に及ぶまで、退館時間を気にすることなく、思う存分様々な創作活動に打ち込むことができる
- ・運営面では、「原状復帰」を原則に利用者自身が責任を持って施設を利用
- ・6時間1,100円（4区分）

⑥CHILDRENバレエ（LONDONモデル）の運営

- ・あらゆる社会的、経済的背景を持つ子どもたちに対して、才能に対する経済的な障壁をなくし、スターの資質と魅力を持ったダンサーを発掘する
- ・子どもの教育や通常のバレエの訓練を強化することを目指し、バレエだけに特化せず、教育についての全体的なアプローチを行う

コンソーシアムとしての文化芸能国際交流の新たな取り組み（試案）

⑦芸術監督の招聘

- ・兵庫県立芸術文化センター（佐渡 裕氏）
- ・愛知県芸術劇場（勅使河原 三郎氏）
- ・東京芸術劇場（野田 秀樹氏）

⑧箕面市文化芸能国際交流高校生会議の開催

- ・自分たちのやりたいこと
- ・高齢者の方々のためにやりたいこと

これら8つの取り組み試案はあくまでMICAのイメージ共有のためのものであり、その実現については様々な角度からの検討が必要になり、その意味で実現を急ぐものではない。MICAの役割、機能等は今後の議論の中で見えてくるものである。

即ちこれら8つの試案は今後の議論の拠り所としてのものであり、これらの直接的実施のためにMICAの発足を提言するものではない。

（文責：ワークショップ座長 大迫弘和）

◆本市・参加メンバーの所属団体等に係る文化芸術国際交流に関連する行事

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
文化芸術国際交流関連行事		春講座（阪大提供の講座）				秋講座（阪大提供の講座）						
				阪大夏祭り 第2回シンポジウム	まんどろ火祭り	メキシコ文化のタベ	箕面まつり	語劇祭	多民族フェスティバル	船場イルミネーション		



◆これまでの検討経過

●第1回

- 日 時：令和3年(2021年)7月20日(火) 午後1時30分～午後3時
- 場 所：船場生涯学習センター 5階 507室(会議室2)
- 内 容：委員による発表
岩城委員 (公財)箕面市国際交流協会の可能性
－当事者主体のコミュニティと多様性を活かした地域づくり－

●第2回

- 日 時：令和3年(2021年)9月28日(火) 午後2時～午後4時
- 場 所：箕面市役所 本館2階 特別会議室
- 内 容：委員による発表
米田委員 大阪大学外国語学部がめざすもの
安田委員 語劇祭で知る世界

●第3回

- 日 時：令和3年(2021年)10月25日(月) 午後2時～午後4時
- 場 所：箕面市役所 本館2階 特別会議室
- 内 容：委員による発表
阿部委員 創造都市MINOHをめざして
須貝委員 まちづくりは人づくり ～自分のまちを「住みつづけたいまち」へ～
小林委員 箕面船場はきっとおもしろいまちになる

●第4回

- 日時：令和3年(2021年)11月15日(月) 午後2時～午後4時
- 場所：箕面市役所 本館2階 特別会議室
- 内容：委員による発表
 - 村井委員 船場西地区連合自治会のご紹介
 - 山口委員 大阪船場繊維卸商団地協同組合について

●第5回

- 日時：令和4年(2022年)1月17日(月) 午後2時～午後4時
- 場所：箕面市役所 本館2階 特別会議室
- 内容：委員による発表
 - プリティ委員 インクルーシブな社会を目指す
 - 吉岡委員 音楽の力と箕面船場における活性化の可能性

●第6回

- 日時：令和4年(2022年)2月16日(水) 午後2時～午後3時30分
- 場所：箕面市役所 別館6階 第3会議室
- 内容：委員による発表、中間報告に向けた検討
 - 森委員 公益財団法人箕面市メイプル文化財団について
 - ー地域に密着した事業展開と地域に親しまれる施設づくりー

●第7回

- 日時：令和4年(2022年)3月16日(水) 午後2時～午後4時
- 場所：箕面市役所 別館6階 第3会議室
- 内容：中間報告(案)について

◆箕面船場における文化芸能国際交流のまちづくりワークショップ メンバー

氏名	所属
大迫 弘和 (○)	武蔵野大学教授
阿部 一郎	自治体国際化協会 地域国際化推進アドバイザー
岩城 あすか	箕面市国際交流協会
小林 利彰	箕面船場まちづくり協議会
須貝 昭子	市民活動フォーラムみのお理事長 (NPO団体)
プリティ梨佐クリスティーン	異なる国や文化の架け橋としての役割をめざす弁護士
村井 淳	船場西地区連合自治会
森 七恵	箕面市メイプル文化財団
安田 優美香	大阪大学外国語学部3年生 (語劇祭実行委員会委員長)
山口 裕	大阪船場繊維卸商団地協同組合
吉岡 邑玲	バイオリニスト
米田 信子	大阪大学大学院言語文化研究科 教授

*○印は座長

*事務局 人権文化部文化国際室